

## Show! 楽♪港! (しょう! がっ♪こう!)

～港を楽しく観てみまショー～



いま い 井 努\*

島国である我が国の港湾は、私たちの生活にとって必要不可欠なインフラである。しかし、日常生活において港湾を意識する機会が少ないため、港湾政策や事業に対する理解が進まず、次世代の職業選択肢にもあがらないという悪循環に陥っている。本稿では、それらを少しでも改善するために、徳山下松港開港100周年をきっかけとした事務所初の試みを紹介する。

### 1. はじめに

山口県の瀬戸内海に面した周南地域（周南市・下松市・光市）に位置し、古くから天然の良港として利用されてきた徳山下松港は、1922年に徳山港として開港し、1948年に下松港が、1966年に光港が編入され、2022年2月10日に開港100周年を迎えた。

本稿では、周南地域の発展を支えてきた「徳山下松港」を広く周知し、次世代へと引き継ぐべき大切な財産である「港」と「海」への愛着と誇りの醸成に向けた事業を行うために設立された「徳山下松港開港100周年記念事業実行委員会」の趣旨に賛同し、事務所で実施した徳山下松港開港100周年記念協賛事業「Show! 楽♪港!」等の広報活動について紹介する。

### 2. 広報戦略

一般的な広報戦略は、興味・関心をもつ人を対象にターゲットを絞ることが基本とされている。しかし、1億2千万人のユーザーを抱える土木広報は、ターゲットを絞ることが難しく、仮に情報が届いたとしても、興味のない情報は記憶に残らない。興味をもってもらえないと、どんなに優れた内容を発信しても伝わらない。さらに港湾は人々の暮らしを支える重要なインフラであるものの、日常生活で接する機会が少ないこともあり、港湾そのものの認知度が低い。そのために、港湾政策や事業に対する国民の理解が進まないだけでなく、次世代を担う若者の

職業選択肢にもあがらないことで、担い手不足にも拍車がかかる悪循環となっている。そこで、「そもそも港湾が知られていない」、「港湾に興味が無い」ことを前提とし、港湾とその重要性や魅力がどうやったら伝わるかを検討した。その結果、「子供」をターゲットとし、能動的に学ぶ子供を通して、周りの大人も興味・関心を持つ好循環に期待することとした。特に、好奇心旺盛な子供の憧れに繋がれば、自ら本質や価値を知ろうと行動し、周りの大人も子供の行動をサポートするために興味を持つはずである。このきっかけには、「楽しい」と思ってもらうことがファーストステップであると考え、楽しく学べるコンテンツとして、出前講座「Show! 楽♪港!」を企画・実施した。

### 3. Show! 楽♪港! 開校

出前講座のタイトル「Show! 楽♪港!」は、徳山下松港が周南市・下松市・光市の3市にまたがっていることから、普段交流の少ない3市の小学生が開港100周年をきっかけとして、交流しながら港を楽しく学んでもらいたいという想いを込めて命名したものである。

社会科で「貿易」について学ぶ小学5年生を対象とし、3市の教育委員会を通じて全小学校へ参加募集を行った。結果、14校26クラスより応募があり、約650名の児童に参加頂くこととなった。

実施は、「貿易」について学ぶ時期かつ徳山下松

\*周南市 建設部 河川港湾課 係長（企画部 企画課 兼務）（前国土交通省 中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所 企画調整課 港湾保安調査官）

港開港100周年記念事業のメインイベントである“「日本丸」、「海王丸」、「みらいへ」帆船3隻同時寄港イベント”の開催日（11月5日）に近い10月27日、11月1日、11月4日の3日間に分けて行うこととした。

授業の進め方は、コロナ禍であることに配慮しつつも、児童の反応を確認しながら進行するために、配信拠点を設けて対面授業を行いながらweb会議サービスで複数クラスにオンライン配信するハイブリッド形式とした。さらに、ブレイクアウトルーム機能を活用したグループワーク等を通じて、3市から参加したクラス同士が交流できる授業計画とした。

内容は、①貿易と産業の関係を知らってもらうために「港の役割」、②地域の港に愛着を持ってもらうために「徳山下松港の特徴」、③持続可能な社会を意識してもらうために「SDGsに資するブルーカーボン生態系」とした。授業スキームは図-1の通りである。



図-1 授業スキーム

授業では、写真-1のようにクラスの中で気の知れた友達と話し合いながら自分の意見を整理した後、写真-2のように各クラス数名ずつ発表することで、学びの時間と色々な考えを周南地域の仲間と共有することができた。授業後に学校向けに実施したアンケートでは、一緒に学ぶ機会が無い他の学校との交流を楽しむだけでなく、自分の考えを発表し、相互に色々な考え方を学ぶ有意義な時間であったとのコメントがあり、交流の価値がうかがえた。授業の最後は、画面上で写真-3のように参加者全員による集合写真を撮影した。「港が好きな人？」と問いかけ

る講師の掛け声に、小さな画面越しでも伝わる笑顔で元気よく手を挙げていた児童の姿が印象的であった。

授業終了後、各学校ではクラス単位の寄せ書きや個人単位のオリジナル新聞等で振り返りも実施され、「今まで知らなかった徳山下松港の大切さがよく分かった。」や「(前述した)帆船のイベントに行ってみたい。」など、港に対して関心が深まったという多くの感想が寄せられた(写真-4)。



写真-1 グループワークの様子



写真-2 交流時の発表の様子



写真-3 集合写真

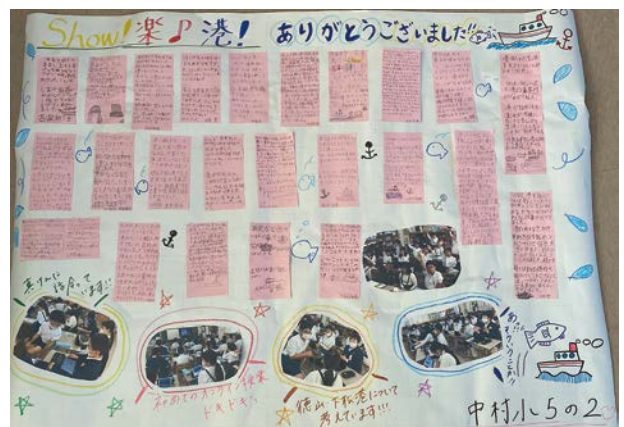


写真-4 振り返りの一例



さらに、出前講座に参加した小学校を対象に“現場見学編”と題して実際の現場を見学してもらうことで、港湾整備のスケールの大きさを体感してもらうこともできた（写真－5）。



写真－5 小学生向け現場見学の様子

以上のように、開港100周年をきっかけとして実施した「Show! 楽♪港!」を通じて、周南地域の児童が繋がり、生活に必要な「港」を身近に感じてもらうことができたと考えている。また、発信側であるはずの私たちにとっても、児童の楽しそうな笑顔や真剣な眼差しに触れることにより、職の意義ややりがいを再認識することができ、モチベーションを維持・向上させる等の副次的効果もあった。

#### 4. その他の広報活動

事務所は、関係自治体や港湾利用企業とのやりとりはあるものの、地域と交流する機会は少ない。そこで、『事務所の存在は地域に知られていない』ことを前提とし、港湾行政や事務所の認知度向上を目的とした“PortUbe”を創刊した。事務所名の“宇部港湾”を振ったダジャレから生まれた広報紙は、1枚の映える写真を活用することで、まずは手にとってもらうことを意識し、興味を持ってもらえた人に事務所のホームページへアクセスしてもらうためのQRコードも明示している。さらに、広報ツールに一貫性を持たせるために、手作りの写真撮影用パネルを作成した。見学会等で活用することにより、港を背景とした記念写真を撮ってもらうことができ、撮影後、パネルに列挙したハッシュタグ（#）に注目してもらうことで、パネルを利用した人だけでなく、その

写真を観た人にも港に興味をもってもらうことができる。「このパネル、実は職員の手作りで…」、「へえ～、かわいいですね♪」という会話から生まれるコミュニケーションは、港を意識してもらうファーストステップとしては十分ではないだろうか？（写真－6）



写真－6 広報紙“PortUbe”と写真撮影用パネル

このように、猫の手レベルで広報活動を実施しているものの、対象としている港湾は現場に足を運んでもらいにくいインフラの1つである。そこで、港湾を身近に感じてもらうために動画の発信も有効であると考え、写真－7に示すYouTubeチャンネルの撮影に協力し、港湾のPRも行った。職員と異なる視点で制作された動画は、港とそこで働くことの重要性や徳山下松港の役割を楽しく分かりやすく伝えており、この動画がきっかけとなり、「動画に登場する企業に就職した。」という嬉しい一報もいただいている。



[https://youtu.be/NBugW\\_CUTIA](https://youtu.be/NBugW_CUTIA)

写真－7 徳山下松港を紹介するYouTube動画

#### 5. おわりに

本投稿を機会に、港湾の魅力を伝えるために実施した事務所のチャレンジを整理した。広報活動を通して、興味・関心の無い人に振り向いてもらうためには、口コミによる身近な親しい人からの声かけやリアルな場での誠実な対話が質の高い広報に繋がると感じている。皆さんもジャブのような小さなアクションで良いので、まずは、身近な人へ自分の仕事を伝えることから始めませんか？ Shall we 猫パンチ？

【著者紹介】 今井 努（いまい つとむ）

平成15年神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻修了。同年、橋梁メーカーに就職、設計他に従事。平成25年周南市役所へ入庁。令和3・4年度に国土交通省中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所への出向を経て現職。